



まだまだ続く新型コロナウイルス

しばらく感染が落ち着いていた新型コロナウイルスの感染状況ですが、先週から、本校でも感染者が増加し、学級・学年閉鎖が相次いでいます。新型コロナウイルスは、熊本県内では直近1週間で1860人の感染が報告されています。熊本県によりますと、9月10日(日)までの1週間に県内の医療機関から報告された新型コロナウイルスの感染者数は、前の週から76人増えて1860人となり、増加傾向にあるそうです。また、インフルエンザも451人で、前の週から2倍以上増加しています。右上図は、厚労省が発表した過去の参考値(青色の棒グラフ)と、2023年5月8日以降の最新の「定点把握」の数値(黄色い棒グラフ)です。



また、全国的には、オミクロン株から派生した新たな変異株 ED5(通称エリス)が流行しているということです。この通称エリスについて、関西福祉大学の勝田教授は「重症化する割合が増えているわけではない。ただ、高齢者や基礎疾患のある人だけでなく、免疫系に問題を抱えている子供は特に注意が必要」と話しています。

第5類になったとはいえ、学級閉鎖等になれば学校・家庭生活において不都合なことも生じてきます。手洗い・うがいなどは、インフルエンザにも有効ですので基本的な感染症対策に心掛けていきましょう。

学校百景 その⑥:企画委員会の看板

正門(黄色門)に入ると右側に企画委員会の子供たちが作った児童会目標が掲示されています。子供たちがペンキで絵を描き、文字を書いて仕上げてくださいました。最後は、看板に木の足を付けて完成しました。児童会目標は「高みをめざして それぞれを認め合い
役割を果たす わくわくする帯山西小学校」です。ここにも帯西で大切にしている「4つの心」が入っています。一人一人の子供たちが「4つの心」を大切に、そこを目指して欲しいと思います。



五味以外の味

わくわく通信76号で、「味の基本5要素は、甘味、塩味、酸味、苦み、旨味です。」と書きましたが、五味の他に味を表す言葉はあります。例えば「渋い」。渋柿の様な癖のある味です。また、「えぐい」もあります。今では、「えぐい商売=とてもあくどい商売」とか「えぐい成績=驚くほどいい成績」、「エグ!=ありえない」というように味以外で使われています。しかし、本当の「えぐい」味を想像できますか?「えぐい」は、例えばタケノコをあく抜きしないで茹でたときの味を言います。食べると口の中がいつまでも嫌な感じになる。これが五味以外の味を表す「えぐい」なのです。